

## はしがき

ここに『アクチュアル民事訴訟法』を刊行する。

紛争はまさしく生きている。動く。そして、そのうちの決して多くはない決着がつかない事案には、民事裁判が制度として用意されている。民事裁判もまた生きている。こうした民事裁判をルールとして支えるのが民事訴訟法である。本書は民事訴訟法の基本事項をアクチュアルに、つまりは現実の姿を強く意識しながら、初学者教育に取り組んでいる執筆陣の専門を生かしつつ書き上げたものである。分かりにくいところは読み飛ばして、全体をまずは一読してほしい。類書も少なくないなか、わずかばかりでも理論と実務を架橋する意気込みが伝われば幸いである。

自由でざっくばらんなふるまいや取決めがおおむね基本的には許される民法などの実体法の世界のイメージ。これに対して裁判は、おごそかで厳しいルールをふまえる形式美の世界というイメージがある。訴えの提起により、実体法の世界は、ある意味で、訴訟法の世界に切り替わる。深まる訴訟手続のなか、提訴時の高揚感は徐々に薄れ、訴訟の過程によっては、ときにあきらめや失望さえも折り込みながら、低下していくことも避けられない面はあろう。これは、訴訟自体によって紛争が解決されるのではないことも示唆している。人の成長と同じで、どう自らと折り合いをつけていくか、そして訴訟過程や判決といった厳しい局面に正面から向き合うなか、自らの判断で決着という終止符を打つということでもあろう。まことに、われわれは、あらゆる意味において覚悟が必要な時代に入ってきたようである。

一冊の本の出版というのは、多くの優れた執筆者の総和に出版者側の協力のかけ算、そして読者数の変数が加わる。企画から刊行まで支えていただいた方々、そしてこの本を読まれる方々、これらの方々にあらためて心からの感謝を申し上げる次第である。

思えば、『新現代民事訴訟法入門』の本格的全面改訂（A5判横組み化）を出

版社から持ちかけられたのは、ほぼ3年も前のことだっただろうか。ずいぶんと昔のことのような気がする。いつも公私にわたり気にかけていただいている中野貞一郎先生（大阪大学名誉教授）への感謝の思いを深めつつ、出版社からの申出を引き受けることとした。平成10年施行の新民事訴訟法は、改正と関連立法を重ね今日に至っている。こうしたなか、激しい進化の途上にある民事裁判の動態に應接した最新の民事訴訟法の入門テキストとして、あらたに誕生した。中野貞一郎編の旧々版の趣旨を生かして全面改訂したものである。旧編著『新現代民事訴訟法入門』（現代法双書シリーズ）からの経緯のほか、あるべき学説引用が紙数の制約から厳しく限定される事情など、温かく見守りご理解いただいている諸先生方のご厚情には言葉もない。心より深謝する次第である。

さらに事項索引については、國學院大學大江毅准教授に快くお引き受けいただいた。ご助力いただいたことにつき、ここに記して謝意を表するものである。

「全面改訂方針」には、小説を読むような感じで、徹底して分かりやすく民訴を理解していくスタイルを掲げた。初めて民事裁判を理解しようとする社会人や学生の読みやすさをつねに意識した。正確さを必要とする専門性との折り合いは容易ではない。今後の読者との双方向での関係が出来上がればと願っている。

平成24年8月

復興へのあらたな思いを深めつつ

池田 辰夫